生活リテラシー literacy
自分流の豊かさを見つける才能。

企画監修／積水ハウス株式会社 総合住宅研究所

＃24　子育ち・子育て環境

子どもの〝生きる力〟を育む、住まい環境づくり。

緑に囲まれた豊かな自然環境や通学の利便性、文化・教育施設に恵まれた近隣環境など…。
住まいを考える際に、子どもの成長を想って様々な条件を検討される方も多いのではないでしょうか。
周辺や近隣の環境面だけでなく、日々過ごす室内や敷地内にもしっかりと目を向けておきたいものです。
安全・安心への配慮はもちろん、子ども自身の知性や感性を育むような工夫や仕掛けが施されていれば、
すこやかな成長を見守る住まいとして、とても魅力的だと言えるでしょう。
今号では、そんな子どもの生き生きとした成長を支える住まい環境について、
積水ハウスの子育ち・子育て研究のノウハウをもとにご紹介しましょう。

子どもの頃の様々な体験が、〝生きる力〟を育みます。

人は何かを感じたり行動する時に、それまでの様々な体験をよりどころにしていると言われています。とくに幼い頃の体験は、心地よいと感じたこと、綺麗だと思ったこと、楽しかったり嬉しかったり、悔しかったことや悲しかったことまで、心の深いところに記憶されるものです。

そして子どもの頃の体験の多くは、育った住まいが舞台になります。生まれ育った住まいは子ども時代の象徴として、その後の人生を強く支える原風景となるのです。

もちろん、特別な日の想い出や賑やかなイベントばかりが心に残るとは限りません。日常のごくありふれた体験こそ、その時々の情緒や五感と結びついて、かけがえのないシーンとなることも多いでしょう。

子どもは色々な体験を通して多くのものごとを学び、そうした原体験によって心身の基礎体力を育みながら、〝生きる力〟を身につけるのです。

子どもにとって「良い住まい」とは、心も身体も色々な体験がたっぷりできる住まい環境なのではないでしょうか。

■積水ハウスが考える〝子どもの生きる力〟

感性
想像力・好奇心・情緒力・表現力・五感（体感力）など

知性
論理的思考力・創造力・行動力・自発性・主体性など

身体
健康性・運動能力・危険回避力・器用性・立ち居振る舞いなど

社会性
コミュニケーション力・協調性・適応力・共感力など

「子育ち」と「子育て」の双方向の視点が大切です。

子ども時代にどれほど豊かな体験を積めるかが大切であるということを考えれば、その舞台となる住まいの役割は想像以上に大きなものになります。

そこで積水ハウスは、子どもが本来持って生まれ、自ら育とうとする力を「子育ち」と呼び、子どもの生き生きとした成長を考えた住まいづくりのための重要なポイントとして捉えています。

いわば、子ども目線での住まいの在り方の追求。子どもの感性や知性、身体能力や社会性を育む工夫や仕掛けを住まいに盛り込むことで、「子育ち」の過程をサポートしようと取り組んでいます。

ただ、子どもはひとりで育つわけではありません。「子育ち」に配慮すると同時に、家族（親）が子どものすこやかな成長を助け、見守りやすくする「子育て」の工夫も重視。育児のしやすい空間づくりや個室の与え方など、独自のノウハウを活かした提案を行なっています。

「子育ち」視点＋「子育て」視点。この双方向の考え方が、子どものための住まいづくりの基本として重要なポイントになります。

住まいには子どもにとっての危険が多く潜んでいます。

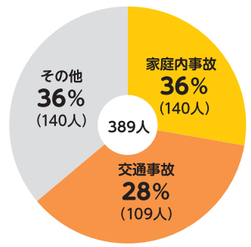
子どもはいつでも好奇心旺盛です。それは〝生きる力〟を身につけるためには大切なことですが、反面、危険を招いてしまうこともありがちです。

子どもは「こうしたら、こうなる」という知識や注意力がまだ充分ではありませんから、大人のように危険を察知することができません。視界に入るものは何でも触りたいし、目標物に対しても突進しがち。ヒヤヒヤすることも少なくありません。

■子どもの能力と起きやすい事故

	乳児期・ハイハイ期（5・6ヶ月〜1歳頃）	幼児期前期・歩く期（1歳〜2・3歳頃）	幼児期後期・何でもできる期（4・5歳〜）
子どもの能力 できること	●色々なものをつかむ、聞ける ●目についたものに向かってハイハイ移動する ●おすわり、つかまり立ちをする ●手につかんで口に入れる	●立位歩行（時々走る） ●階段を上る ●手足を器用に動かす ●大人の真似をする	●走って追いかける ●高所に上る、飛び下りる ●友だちと遊ぶ ●三輪車や自転車に乗る
子どもの能力 できないこと	●危険の判断ができない（言葉で注意しても理解は難しい） ●高所によじ上れるが下りられない	●周囲の危険察知、判断ができない ●視野が狭く、空間全体を捉えられない ●バランスが不安定	●危険判断が不充分 ●一度にひとつのことにしか注意が向けられない
起きやすい事故	●転落（バスルームへのハイハイ移動から浴槽の覗き込み）（階段や椅子から） ●火傷（ストーブ、ヒーターへの接触） ●溺水（浴槽の覗き込み） ●誤飲（手の届くもの）	●衝突（取手や家具角部へのぶつかり） ●指はさみ（ドア・サッシ） ●鋭利物傷害（包丁など） ●火傷（ガスコンロやライターなど） ●窒息（袋を被って） ●溺水（浴槽の覗き込み） ●感電（コンセントのいたずら）	●転落（テラスや窓から）（高所へのよじ上りによる） ●落下物の衝突（高所のものを取ろうとして） ●交通事故（ひとりでの道路への飛び出し）

■子どもの不慮の事故による主な死亡原因



※人口動態統計（厚生労働省／平成22年）

実際に住まいの中でケガなどに見舞われることも多く、子どもの不慮の事故による死亡原因では、家庭内事故が3割以上を占めます。残念なことに、これは交通事故による死亡数を上回る悲しい結果となっています。

大人にとっては安全な住まいでも、小さくて身体能力が未熟な子どもにとっては、危険な場所になることもあるのです。

かと言って、何でも「危ないから」と住まいの中でも行動を規制してしまっては、子どもが自ら発達する機会を奪いかねません。いろんな体験・経験をしながら「どうしたら痛いのか」「危険なことは何か」を〝身をもって学んでいく〟ことも大切なのではないでしょうか。

危険性と経験値は、表裏一体のもの。子どもの能力にあわせた安全性を確保しながらも、経験を通して成長を促すような住まいが理想だと言えるでしょう。

子どものための スマートユニバーサルデザイン。

日々の暮らしの中での様々な経験は大切だけど、大きなケガや事故は回避したい。そんな思いを住まいに反映するには、どのようにすれば良いのでしょうか。

まず「子どもの発達＝子育ち」という視点で、子どもの身体能力の範囲でできることを把握した上で、遊びやお手伝いを通じて危険察知や回避能力を育む工夫やアイテムを導入することが第一歩。そして重大な事故につながる危険を、住まいの中から確実に取り除いていくことが大切です。

積水ハウスは長年の研究をベースに、子どもの身体や行動の特性を「小さい」「弱い」「わからない」の3つに集約。それぞれの特性に沿って住まいのアイテムや対策をラインアップし、安全性を確保しながら自主性を育む「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」を開発しました。

これらの工夫やアイテムを戸建て住宅の計画に採用し、その実績と成果をグランドメゾンにも活かしています。

■子どもの身体や行動・3つの特性

子どもは身体が小さく、高いところに手が届かなかったり、行動姿勢のバランスが不安定になりがちです。

子どもは体力や免疫力が弱く、手足も不器用なため、いざと言う時の抵抗力や初めてのものへの適応力がありません。

子どもは好奇心旺盛でありながらも、注意力や知識力が未熟。知らずに危険なものに手を伸ばしてしまいがちです。

■子どものための スマートユニバーサルデザイン アイテム例

閉まる直前にブレーキがかかり、ゆっくりと静かに閉まる「ソフトクローズ機能の付いた引き戸」。指挟み事故を防ぎます。

操作面が大きく、子どもが自分でスイッチ操作しやすい「大型スイッチプレート」。節電の習慣を身につけやすくしています。

中折れ部の隙間をほとんどなくした「指挟み防止配慮の収納折戸」。子どもの小さな手足の指でも挟む心配がありません。

子どもの手の届かない高さに設けた「浴室ドアのチャイルドロック」。子どもの浴室への侵入を防ぎ、水の事故から守ります。

■こどもOSランゲージとは

こども OS ランゲージ

子どもの行動特性をプレイフルなデザインに活かすためのアイデア発想ツール。積水ハウスが参加する「キッズデザイン協議会」の研究プログラムのひとつとして、複数の行政機関や企業などが共同開発したものです。人間の持つ本能的な発想や行動・感性などを刺激することで、創造力を豊かに育むのが特徴です。

※2008年度（第2回）キッズデザイン賞受賞、
2012年度（第6回）キッズデザイン奨励賞・特別賞受賞

グランドメゾンでは共用部にも様々な工夫を施しています。

子どもが様々な体験や経験を積み重ねる場所は、住まいの中ばかりとは限りません。とくにマンションの場合は、敷地内に設けられた庭などの共用部も貴重な体験の場になると言えるでしょう。

グランドメゾンでは、そんな共用部も子どもの〝生きる力〟を育む大切な住まい環境として捉え、多彩な工夫を施しています。

その一例が、積水ハウスが大阪府産業デザインセンターや複数の企業などと共同研究し、その成果として開発した「こどもOSランゲージ」を活かした仕掛けづくりです。

■こどもOSランゲージ「五感スイッチ」の例（グランドメゾン狛江／東京都狛江市）

敷地内の色々な場所に、子どもが本来持っている豊かな感受性や創造力・直感力などを刺激する『五感スイッチ』を計画し、子どもが自ら楽しく遊びながら多くのことを学べるようにしています。

庭の中に道祖神のようにひっそりと設けられた「かみさま」。子どもたちの気持ちのよりどころになり、故郷の風景として心に刻まれます。

川を飛び越えるように設けられた太鼓橋「小川ジャンプ」。走り抜けたり、橋の上から小川を眺めたり、子どもの遊び心をくすぐる仕掛けです。

子どもならではの感覚で色々なことに思いを巡らせたり、身体を動かしたり、自然や友達と対話する体験などを通して「子育ち」を促す仕組み。大人の〝子ども心〟も刺激し、親子で一緒になって楽しめるようにしています。

ケンケンパのリズムでアプローチに設けられた「はっけんパ」。子どもたちがいちばん最初にこのリズムを発見して遊ぶことでしょう。

石の上に葉っぱの形を彫った「ぴったり探し」。ぴったりと合う葉っぱ探しを通して、庭に多くの樹木が植えられていることを学びます。

グランドメゾンは、住まいの中だけにとどまらず、敷地全体をわが家と捉え、子どもの〝生きる力〟を育む住まい環境づくりに取り組んでいます。

住民の共同菜園として計画された「菜園ガーデン」。自らの手で育てる喜び、食べ物としていただく感謝の気持ちが芽生えます。

木を囲むように空中に設けられた「ツリーデッキ」。いつもと違った視界の広がりが生まれ、木の高いところの様子を知ることもできます。